

学校に通えるようになった！

不登校を卒業できる放課後デイ！

神奈川県川崎市

株式会社アイム

ダヴィンチ放課後 武蔵小杉

代表取締役 佐藤 典雅

1 はじめに

近年、小中学で不登校者の増加が大きな社会課題になりつつあります。文科省の調査（H29）では中学生の33人に1人が不登校であるとの結果が報告されていました。4年前に始まったアイムは当初、自閉症のための放課後等デイサービスとして始まりました。ところが次第に不登校の生徒さんたちが通いはじめるようになり、放課後等デイサービスとして不登校に対して何ができるのかを真剣に考えてきました。

アイムではすでに10名程の不登校の生徒を学校に復帰させてきました。これはアイムで、生徒たちが前向きに物事に取組むためのアプローチ方法を追求してきた結果です。生徒たちが自己成長を感じられる体験の提供こそが、自己肯定感の向上につながり、ひきこもり・不登校を抑制する最適な方法だと考えています。では具体的に生徒にどのようなアプローチをし、効果があったのか一つのエピソードを通じてお伝えしたいと思います。

2 事例や取組みの紹介

アイムにやってきた不登校の生徒さんの一人であるアキ君（仮）のお話です。遠くの私立に通っておられましたが、学習障害を持っているため、小学校の頃から不登校を繰り返し、中学校では一年ほど不登校状態でした。そこで親に連れられてアイムに通い始めたのですが、自分の好きなパソコンを好きなだけやってよいといわれて、週に一度遠方から通い始めました。

ある日、自分のやりたいことが生徒用のパソコンのスペック（機能）ではできないので「社長に直談判したい」といってやってきました。そしてなぜもっと機能の高いパソコンを教室に導入してほしいか、という提案書をパワーポイントにまとめて持ってきました。さらに価格の安いお店までネットで探してまとめてあり、スタッフ一同驚きを隠せませんでした。

とはいえ、とても高価なプロ用のパソコンだったので、「週1ではなく毎日デイに通うこと。そして学校にはいっていないので、好きな本を読んで感想文を提出すること」という条件を出しました。すると次の日から彼は毎日アイムに通うようになりました。そこでご両親が「アイムに行くなら学校に顔をだしてからいくこと」といいました。すると翌週から学校に少しの時間でも顔を出してからアイムにくるようになりました。

私はアキ君に「好きなブランドの会社は何か？ そんな会社を創った人の自伝を読んでみない？」と持ちかけました。すると「アップル、マクドナルド、ディズニーなどに興味がある」と

の回答が。そこであえて大人用の自伝本を15冊ほどとりよせて選ばせました。すると彼は「手で文章を書くのは苦手なのでワードでもいいか？」と聞いてきました。学校では手書きが彼にとってネックとなっていたので、「読めればなんでもいいよ」と了承。後日、アキくんのご両親とお会いした時に「うちの子は今まで感想文はおろか読書すらしたことがないので、感想文を自主的に書くといって張り切っている息子をみて感激しました！」といわれました。

一ヶ月ほどして、私が教室にいくと彼の姿がなかったので「アキくんは最近きてないの？」と聞いたら、スタッフが「アキくんのために学校に毎日顔を出していたら、不登校が治ってしまい、今は週末しかアキ君うちにこれないんですよ」と笑っていました。ちなみにこの時に新しいパソコンが欲しいという二人の生徒から感想文を頂きましたのでご覧ください！

●アキ君（中3・発達障害に伴う学習障害・不登校）の感想文



まずこの本を読もうと思った理由は将来社長になった時に使える知識を学べると思ったからです。この本を読んで学んだことは、会社を動かすには人が動かないと動かないということと、人を動かすにはその人の動かない理由を調べてその対策をとれば、動いてくれる可能性があるということを学びました、この本の感想は、会社や人の動かし方にはいろいろあるんだなと思いました。

●しゅん君（中3・発達障害に伴う学習障害）の感想文



僕はこの本を読んで、夢を追いかけているトランプさんを思い浮かべました。時に自分の不利をも利用し、相手の弱みを握り、相手に合わせて時に柔軟に、時に相手の希望を見据えて、交渉を行い、いかなる時も「自分」を捨てず勘を信じ、自分の利益と相手の利益を最大限に出せる結果を求めてひたすらに前に進む姿さえ想像できます。この本は、様々なことを教えてくれます。タイトルにあるお金の儲け方だけではなく、人との接し方、交渉などのポーカーフェイス、そして人との接し方であるこれは、今後生きていくために必須なことであり、それを、自分の体験談なども交えて楽しくその知識を得ることができました。

3 考察

今回の件はアキ君にとって「好きなことの追求⇒交渉の学び⇒対価のための課題設定⇒読書と感想文」という一連の流れとなりました。楽しい目標をもち課題をクリアすることが自信となり、不登校の克服へと繋がりました。また読書を通じて「自分の人生の夢と社会性」というものに向き合い、生きていくヒントを学んだかと思えます。

4 おわりに

「好きこそものの上手なれ」日本には素敵な言葉があります。それを生徒たちが実現するために一緒に並走する役割こそ、私たち放課後等デイサービスが提供できることです。正直、経営する立場からしたら、生徒が不登校を卒業してデイに通わなくなるのは売上が落ちる話ですが、生徒の不登校が治るのであれば、これこそ健全な福祉の経営だとおもいませんか？